

四、孤高に生きた大西禎夫さん

讃岐の政界における人脈の間に伍して、大西禎夫さんはいわば孤高の存在であられた。三土忠造さんや三木武吉さん、或いは津島寿一さんに見られるように、豊富で多彩な話題を残されはしなかつた。大西さんは黙々として、独りわが道を行くの態度に終始された。「君子は独りを慎む」ものだといわれるが、大西さんは先ず自分自身を慎まれた。人におもね、人に恃むところもなく、みずからの功に奢るところもなかつた君子であられた。

大西さんはまた権勢におもねることもなく節操を重んずる人であつた。三木武吉さんが、鳩山一郎氏をかついで民主党をつくり上げ、中央においてはもとより地方においても大攻勢を展開されたことがあつた。大西さんはこの時流に対して、淡淡としてみずからのベースと自由党の孤塁を守り、自由党に対する節操に生き抜かれたのである。私は大西さんと、当時の嵐の中で同じ信条に終始できたことを誇りに思つておる。

大西さんは名門の出身で、銀のスプーンをくわえて育てられた方である。だから大西さんは庶民からは縁遠い人のようにいわれる方がある。事実、大西さんは大衆性を具えられた人ではなかった。その行蔵は派手でダイナミックではなかった。しかし、大西さんはその精神生活においても物質生活においても、清廉且つ簡素であられた。公人としても私人としても立派な格律の中につつましい生活を営まれた。庶民に媚びるよりも、庶民と同様につつましい生活に生きられた大西さんの方が、本当の意味において庶民性をもたれていた方ではないだろうか。